
リハビリテーション天草病院だより

2025年 7月

No. 115



発行 埼玉県越谷市平方343-1 / (医) 敬愛会広報委員会

臨床、教育そして研究

リハ事業推進部 部長 古澤 浩生

「プライドを持って、プロ意識を持って、プラス思考で」——この言葉は、私が30年間、天草大陸相談役から繰り返し学んできた、仕事に向き合う上での大切な教訓です。

日々の臨床において、患者さん一人ひとりの人生と向き合う中で、この言葉の重みと意味を幾度となく実感してきました。これらの教えは、私の判断の軸であり、後進の育成にも受け継がれています。

私たちは地域社会との連携も大切に、チーム医療の一員として多職種と協働しながら、患者さんの生活再建に寄り添う姿勢を貫いています。

療法士の仕事は単なる治療にとどまらず、「臨床」「教育」「研究」という三つの柱を軸に、常に進化を求められる専門職です。当院では、患者さんの個別性を尊重したオーダーメイドのアプローチを大切に、その実現のために「ポバース概念」を中心とした臨床実践を行っております。また、その臨床を支える教育体制として、実際の場面に即したOJT（On the Job Training）を積極的に導入し、若手療法士の成長を促す教育システムの確立を目指してきました。

さらに近年では、埼玉県立大学との共同研究提携のもと、天草弥生理事長のご指導により、研究に特化した療法士を配置した「研究部門」を設置いたしました。これにより、当院の臨床実践を客観的に評価し、根拠あるリハビリテーションを築くことが可能となってきました。

その研究部門では、現在、AI（人工知能）を活用した三次元動作解析を中心とした介入効果の判定に取り組んでおります。

当院では、ロボットを用いたリハビリテーションを導入するのではなく、急速に進化するテクノロジーを、あくまで療法士による介入の「効果判定」に活用する方針をとっています。これは、療法士自身の介入技術を客観的に分析し、技術の向上に繋げるための大切な取り組みです。

特に、AIを用いた療法士の介入効果の可視化と定量評価を実施している医療機関は、全国的に見ても当院だけです。このような取り組みは、これまで「経験」に頼ってきた療法士の臨床判断を、より科学的かつ客観的に裏づけるための第一歩であり、私たちが築いてきた信頼の医療を、さらに次のステージへと導いてくれるものであると確信しています。

すべての取り組みの根底には、「患者さんの人生を価値あるものに」という視点があります。そしてその実現は、私たち療法士一人ひとりが専門性を磨き、人として成長していく営みそのものでも感じています。

今後も私たちは、最新のテクノロジーを柔軟に活用しながら、療法士の専門性を高め、患者さんにとって最善のリハビリテーションを提供してまいります。そして、すべての患者さんに「この病院でリハビリを受けてよかった」と心から思っただけのよう、職員一同、一層の努力を重ねてまいります。

当院年度別退院患者集計

退院年度		2022年度		2023年度		2024年度		単位
退院患者数		704		673		681		人
性別	男性	385	54.7%	389	57.8%	406	59.6%	人
	女性	319	45.3%	284	42.2%	275	40.4%	人
入院時年齢	91歳以上	9	1.3%	19	2.8%	38	5.6%	人
	81～90歳	196	27.8%	197	29.3%	187	27.5%	人
	71～80歳	225	32.0%	191	28.4%	220	32.3%	人
	61～70歳	105	14.9%	114	16.9%	83	12.2%	人
	51～60歳	92	13.1%	89	13.2%	91	13.4%	人
	41～50歳	50	7.1%	47	7.0%	41	6.0%	人
	31～40歳	14	2.0%	10	1.5%	11	1.6%	人
	30歳以下	13	1.8%	6	0.9%	10	1.5%	人
平均	70.6		71.4		72.1		歳	
入院期間	181日以上	3	0.4%	11	1.6%	3	0.4%	人
	151～180日	98	13.9%	105	15.6%	109	16.0%	人
	121～150日	117	16.6%	93	13.8%	112	16.4%	人
	91～120日	113	16.1%	85	12.6%	95	14.0%	人
	61～90日	170	24.1%	187	27.8%	187	27.5%	人
	31～60日	136	19.3%	130	19.3%	118	17.3%	人
	30日以下	67	9.5%	62	9.2%	57	8.4%	人
平均	92.5		93.8		95.4		日	
疾患別リハ料	脳血管リハ	584	83.0%	524	77.9%	548	80.5%	人
	運動器リハ	112	15.9%	137	20.4%	116	17.0%	人
	廃用症候群リハ	8	1.1%	12	1.8%	17	2.5%	人
	リハ対象外	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	人
疾患内訳	脳梗塞	315	44.7%	288	42.8%	286	42.0%	人
	脳出血	137	19.5%	140	20.8%	141	20.7%	人
	クモ膜下出血	43	6.1%	30	4.5%	40	5.9%	人
	他の神経疾患	92	13.1%	65	9.7%	80	11.7%	人
	骨折	80	11.4%	106	15.8%	98	14.4%	人
	骨折以外の運動器疾患	29	4.1%	32	4.8%	18	2.6%	人
	廃用症候群	7	1.0%	11	1.6%	16	2.3%	人
	急性増悪	1	0.1%	1	0.1%	2	0.3%	人
	リハ対象外の疾患	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	人
診療実績等	重症患者率	47.6		54.5		49.2		%
	重症患者改善率	75.1		71.7		64.3		%
	在宅等復帰率	82.2		80.5		81.3		%
	経口摂取回復率	55.1		51.8		48.2		%
	FIM利得	30.6		30.0		28.7		点
	リハビリ実績指数	53.8		48.9		50.8		点

回復期リハビリテーション病棟入院料1 施設基準

- ・重症患者率：40%以上
- ・重症患者改善率：30%以上
- ・在宅等復帰率：70%以上
- ・リハビリ実績指数：40以上

「絶望から希望へ」

春日部市 木田 恭市

令和6年6月上旬の夕方、私が仕事から戻るとリビングに妻の姿はなくお風呂のようだ。やけに長風呂だと思いドアを叩くと応答がなかった。お風呂のドアを開けると妻が倒れていた。頭が真っ白になり、すぐ意識があるか確認し、救急車を呼び近くに住む息子にも連絡して来てもらった。救急車の中で救急隊の質問にも妻が返答し私は安堵したが、到着した越谷市立病院での診察の結果は、くも膜下出血で私と息子で医師の説明を聞き翌日に手術が決まった。関西に住む娘にも連絡して慌てた娘は始発で病院に来た。74歳まで元気だったのに突然のくも膜下出血、家族全員が言葉を失った。手術に5時間費やし無事成功した。10日後、家族3人で5分だけ面会が許され、私たちは妻の意識が戻り良くなっているの面会が許されたと思ったが、そこには意識はなく酸素マスクをして昏睡状態の妻がいた。それから2日後に危篤状態となり家族と親族が集まった。5日後に危篤は峠を越したが依然として予断を許さない状況だった。そこから2ヶ月半、昏睡状態が続いた。私は意識のない妻の元へ2ヶ月半毎日通い、手を握り話しかけた。状態は変わらないが医師からリハビリテーション天草病院へ転院し、リハビリを始めてはどうかと話を頂き8月中旬、天草病院へ転院した。ところが4日後に電話があり熱があり容態が悪いとのことで再び救急車で越谷市立病院に運ばれ入院した。肺炎と腎臓が悪く医師から再び予断を許さない状況と言われ、治療に専念し20日後の9月

上旬に再び天草病院に転院することとなったが、その時の医師の説明でも大変厳しい状態であり、リハビリが出来る身体ではないとのことであった。説明を聞いた私と娘は絶望で言葉を失った。高熱で呼吸も荒く、かなり痩せてリハビリをする体力もなさそうで、もう長くないと私は息子と娘に話をした。

そんな予断を許さない状況から9日後に天草病院から電話が鳴った。私はその時が来たのかと一瞬思った。話によると寝たきりだった妻が車椅子に乗りだしたので靴が必要との内容だった。2ヶ月半意識もなく寝たきりの妻が車椅子に乗るとは思ってもなく靴を履くことはないだろうと思い、家に持ち帰ってしまったのだった。それから週に4回は面会に行くと車椅子に座る時間も少しずつ長くなり、リハビリのスタッフに支えられ立つようにもなり息子や娘も頻りに面会し、声をかけ家族一丸となり妻を支えてきました。その願いが通じたのか奇跡が起きたのだった。

6月に突然倒れ、目を開けることもなく、自力で呼吸すら出来ない寝たきりから3ヶ月で目を開け、リハビリスタッフの皆様の身体のマッサージで首を頭を動かし、呼吸が荒かったのも胸のマッサージで静かになり、みるみるうちに顔色も良くなり面会に行くたびに妻の変化が見られ嬉しくなりました。最近リハビリ室で積み木を持って並べている様子を見学することも出来ました。

私たち家族は「死」を覚悟していましたが、天草病院に入院してから「生」に変わりました。6月の危篤から厳しいという言葉は何度も言われ涙した私たち家族が絶望から奇跡が起き希望を持つようになり、生死の境を行き来していた妻が私、息子、娘を見て涙ぐみ自身の兄弟の面会時には手を振り、驚きの回復を見せている姿に改めて妻の強い生命力を感じました。これも、看護師、リハビリスタッ

フ皆様の笑顔溢れる優しい対応、懸命のリハビリの成果だと感謝しております。75歳、明るい元気な私の愛する妻にもう少し頑張ってもらい、この先も共に生きてゆきたい。「生きている」命の奇跡を大切に希望を持ち、諦めることなく、この先も妻を太陽として、家族一丸となり前に進んで参りたいと思います。天草病院の皆様ありがとうございました。*患者様は車椅子座位可能な状態に回復し、令和7年2月、当院を退院されています。

(投稿日 令和7年2月6日)

「天草病院で過ごして」

越谷市 福永 清美

令和6年11月30日深夜、自宅で入浴中に突然、左手と左足が動かなくなり、立ち上がることが出来ませんでした。すぐに主人を呼び救急車で病院へ搬送されました。診断は脳出血。入院後はほとんどベッド上で過ごし自力でトイレに行くことも出来ませんでした。18日後、転院の話が持ち上がりました。自宅から近く歴史のあるリハビリテーション天草病院への転院を決めました。今では、その選択が正しかったと心から思っています。

天草病院に移って驚いたのは、元旦にもリハビリがあるということでした。最初は驚きましたが、リハビリスタッフの熱心な姿勢に私も「期待に応えたい」と思うようになりました。リハビリは決して楽ではありませんが、前向きな気持ちで続けることが出来ています。リハビリスタッフは、身体の機能回復をサポートだけでなく、精神的にも支えてくれています。看護師の皆さんも一緒です。話を聞いて励ましてくれたり、時には愚痴にも付き合ってくれたり心支えにもなっています。同室の患者さんや同じ境遇の

方々との会話も大きな励みになっています。お互いに励まし合いながら、少しずつ前進できる環境が整っていることが、とてもありがたいです。

現在、私は社会復帰を目指してリハビリに励んでいます。会社は私の復帰を待っていてくれます。その期待に応えるためにも今出来ることを精一杯頑張りたいと思っています。*患者様は杖歩行可能な状態に回復し、令和7年5月、ご自宅に退院されています。

(投稿日 令和7年3月31日)

感謝の声 (投書箱より)

看護師の皆さん、長い入院で落ち込みがちな時に明るくやさしい言葉で接していただき救われました。本当にありがとうございました。リハビリスタッフの皆さん、リハビリにあたり一つひとつ理論的な説明をしていただきありがとうございました。納得してリハビリに取り組みました。大変、勉強になりました。

(3階病棟 入院患者様より)

感謝の声 (投書箱より)

担当の方々には大変お世話になりまして恐縮しております。リハビリも拝見いたしました。リハビリスタッフの皆さんが親身に一生懸命に施して頂いているのには感動を覚えました。おかげ様でかなり数値もあがり驚いております。本当にありがとうございました。

(3階病棟 入院患者様より)



新任のご挨拶

医師 川村 邦雄（かわむら くにお）



2025年4月1日からリハビリテーション天草病院に着任いたしました、川村邦雄と申します。回復期リハビリ病院として、県内で最も長い歴史と実績を有する環境で回復期リハビリに従事できることを大変嬉しく思っております。

私は、栃木県にある自治医科大学を卒業後、新潟県内の病院で9年間一般内科医として診療に携わってまいりました。これにより、広範囲にわたる疾患に対して対応する力を養い、患者さん一人ひとりの状態に応じた最適な治療法を提供する大切さを深く感じました。その後、新潟大学大学院に入学し、新潟大学脳研究所で脳梗塞急性期治療薬の研究を行い、急性期治療と回復期リハビリにおける連携の重要性を学びました。

大学院卒業後から、前任地である新潟市の総合リハビリテーションセンターみどり病院に約10年勤務し、リハビリ医療に携わってきました。近年、リハビリ病院に入院される患者さんは、リハビリ対象疾患に加えて、糖尿病や高血圧、腎疾患などの合併症を多く抱えているケースが増えており、一般内科領域での診療経験を活かせることができればと思っております。糖尿病や高血圧、心疾患などの慢性疾患を抱える患者さんにおいては、合併症を適切に管理しつつ、リハビリを並行して行うことが、回復を早めるために重要です。

私自身、これまで多くの症例において、リハビリを行いながら合併症を適切に管理することが患者さんの回復に大きく寄与することを実感してきました。

今回、リハビリテーション天草病院に赴任し、これまでの経験を活かして、急性期から回復期に転院されても、一貫した医療支援を提供できればと思います。私は、患者さん一人ひとりに対して、リハビリと合併症管理を両立させる最適な治療を提供し、医師としての役割を果たすとともに、リハビリスタッフとの連携を強化し、患者さんの回復を支える医療を提供してまいります。特に、回復期リハビリにおいては、医師、看護師、薬剤師、介護士、リハビリスタッフ、栄養士など多数の職種のスタッフが一丸となって患者さんに最適なケアを提供することが重要です。私は、患者さんが自立した生活を取り戻すために必要な医療を提供し、リハビリスタッフとともにチーム医療を推進することが私の使命だと感じております。今後とも、どうぞご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

<主な履歴>

自治医科大学医学部卒業
新潟大学脳研究所脳神経内科入局
新潟大学大学院卒業
総合リハビリテーションセンターみどり病院

<資格>

医学博士
リハビリテーション科指導医・専門医
総合内科専門医

新任のご挨拶

医師 半井 慎太郎（なからい しんたろう）



この度2025年4月よりリハビリテーション天草病院の常勤医として勤務させていただいている半井慎太郎と申します。

2019年に昭和大学を卒業後、岐阜県にある多治見市民病院で研修させていただきました。その後リハビリテーション診療科として愛知県にある国立長寿医療研究センターにて研鑽を積み、今年度から当リハビリテーション天草病院で勤務させていただくことになりました。

私は前病院でリハビリテーション診療について学びましたが、リハビリテーションというのは実に幅広い分野だなと、今現在も日々実感しています。当院に多い脳卒中患者さんをはじめ、骨折等の整形外科疾患、脊髄損傷、神経・筋疾患、リウマチ、切断、小児疾患に加え、内科的管理や嚥下機能評価、褥瘡対応といったことまで多種多様な分野を扱います。その中で私は主に回復期病棟で脳卒中や運動器疾患の患者さんを受け持ちリハビリテーション・全身管理を行ってきました。特に本国は超高齢化が進み、一人の患者さんが抱えている持病も多く、その中で病気によって機能障害をきたすというのは大変不安なことと思います。当院入院中に、その不安を少しでも取り除けるように、私はコミュニケーションを大切に日々の診療を行うよう心掛けています。

リハビリテーション医の役割は指揮者に例

えられることがよくあります。様々な疾患・状態を把握し、それぞれの専門スタッフへ指示を出したり、協力して診療に取り組みつつ、患者さん・ご家族とよく話し合い、メディカルソーシャルワーカーや時にケアマネージャーとも連携を取って患者さん・ご家族にとってより良いゴールを目指していきます。

医師一人で出来ることは限られていますが、スタッフやご家族など、患者さんの周りにいる多くの人を巻き込んでコミュニケーションを図ることで、患者さん・ご家族を含めたチームとなり、一丸となることでリハビリテーションの効果も高まると思います。

また当院で採用しているリハビリテーション方法（ボバース法）は、私自身初めて扱う訓練方法なので、今までの経験を活かしつつ新しい知識を吸収してそれぞれの良さを引き出しつつ、患者さんに沿ったより良いリハビリテーションを提供できるように尽力したいと考えています。

新しい環境で慣れていないことも多いですが、精いっぱい頑張っていきますので何卒よろしく願いいたします。

〈主な履歴〉

昭和大学（現 昭和医科大学）医学部 卒業
多治見市民病院
昭和大学藤が丘病院
国立長寿医療研究センター 勤務

編 集 手 帳

＊又々、日本維新の会が無能ぶりをあらわにしました。同党発案の再来年度までに全国の病院病床を11万床削減案に政局がらみで、自民党、公明党が根拠らしい根拠なく同意したのです。維新はこれにより、国民医療費を1兆円程度減らせると主張します。前号でも維新は「医療費を年間4兆円削減し、現役世代1人当たりの社会保険料を6万円下げる」と大風呂敷を広げたことを紹介しました。維新だけでなく他の野党も大衆受けする政策を参議院選に向けて連発しています。

＊11万床削減という数字が独り歩きし、患者さんや医療現場は不安が募り混乱に陥っています。病床削減ありきではなく、パンデミックや大規模災害などの対応を含めて地域で必要な入院医療がなくならないよう努力していくのが政治家の大事な仕事ではないでしょうか。今の政治家の一部は極めて無責任です。

＊国民の中には「病院はもうけている」と誤解している方もいますが、現在、病院は人件費増、給食材料費の高騰等々の物価高が原因で、血のにじむような運営を強いられ、7割が赤字経営となっています。

(相談役 天草 大陸)

当法人の公式ソーシャルメディア

患者さんへの情報発信として、当院の公式 YouTube チャンネルを開設しています。右のQRコードからアクセスできますので、是非ご視聴ください。

- 認知症専門医が解説 認知症のリハビリテーション
- ～回復期～ リハビリ治療の達人たち
- 入院当日の流れ 一回復期リハビリテーション
- 口から食べるリハビリ最前線 摂食嚥下リハビリ－VE/VF検査－
- 脳卒中から仕事に戻るまで ー高次脳機能障害からの復活ー 他



当法人施設が取得する第三者評価認証

患者さんが病院を評価するには、その病院自身の「自己紹介」も参考になりますが、第三者の評価も重要です。当院では「病院機能評価機構(主たる機能と高度・専門機能)」と「ISO」の認証を取得しています。なお、併設の老人保健施設でも「ISO」の認定を受けています。



日本医療機能評価機構



日本医療機能評価機構



表紙のことば

「この作品は4階病棟入院患者様がリハビリの合間に「これもしリハビリだから。」と熱心に作成されたコースターと患者様の知人が回復を願い折り紙で作成された花束です。退院時に素敵なコースターをスタッフや他患者様にプレゼントしていただきました。これからも患者様の気持ちに寄り添ったケアをさせていただきたいと思えます。

T.S様 S.O様 4階病棟スタッフ一同